

IV 情報活用能力を育成する場面の例

いわての授業づくり3つの視点		情報活用能力育成の場面（例）				
		学びのイメージ	児童生徒の活動	教師の視点	基本的な操作等	情報モラル
視点1 「学習の見直し」	<p>■児童生徒の姿■</p> <p>1 自らの気づきや考え、学習経験などを基に、友だちや先生との対話を通して、主体的に学習課題を見い出している。</p> <p>2 課題解決に向けて、既習事項（用いるもの）や、考え方（用い方）を確認し、解決方法や結果を予想している。</p>	<p>明確な課題意識をもって、主体的に情報を集める</p>	<p>①学習問題・課題への興味・関心を持つ</p> <p>②必然性のある課題の設定</p> <p>③収集方法の検討</p> <p>④解決方法・探究の見通し・予想</p> <p>⑤対話的な課題づくり</p> <p>⑥グループや学級での疑問・解決案の表出</p> <p>⑦チームづくり</p> <p>⑧情報収集の分担</p> <p>⑨課題の確認</p> <p>⑩単元、題材の基礎となる知識や技能の習得</p> <p>⑪情報収集の質と量の吟味</p> <p>⑫収集した情報の検証</p> <p>⑬振り返りの機会</p>	<p>①児童生徒が自分事としてとらえられる、必然性がある資料</p> <p>②児童生徒の気づきや考え、興味・関心から生まれる問い</p> <p>③既習事項、手段、場所・相手、キーワード、質問、考え方</p> <p>④指導の計画</p> <p>⑤アイデアを選ぶ条件や優先順位</p> <p>⑥ブレインストーミング、付せん紙の活用等</p> <p>⑦生活班、課題別グループ</p> <p>⑧テーマごと、手段ごと</p> <p>⑨目指す資質・能力との対応</p> <p>⑩構造的な板書の計画と工夫</p> <p>⑪信頼性、多面的、読み解きの適正量</p> <p>⑫信頼性、新規性、許諾条件の確認</p> <p>⑬計画の評価・調整をする機会</p>	<p>キーボード入力（ホームポジション）、マウス操作、ファイルの保存（端末、クラウド含む）、充電、ペン入力、写真、動画の撮影、モページのタブ操作、アプリの利用等</p>	<p>知的財産権（著作権等）、肖像権、情報セキュリティ、ネットの特性等</p>
	<p>【授業づくりのポイント】</p> <p>ア 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、育成を目指す資質・能力を児童生徒の姿で具体化する。（目標と評価規準の明確化）</p> <p>イ 児童生徒の気づきや考え、興味・関心から問いを引き出しながら、必然性のある学習課題を設定する。</p> <p>ウ 児童生徒が、課題解決の方法や過程についての見直しをもったり、振り返ることができるように構造的な板書（キーワードを示す等）を計画する。（視点1～3に共通）</p>					
視点2 「学習課題を解決するための学習活動」	<p>■児童生徒の姿■</p> <p>3 わからないところは自分で調べたり、友だちや先生に質問したりして、見直しをもって主体的に課題解決に取り組んでいる。</p> <p>4 自分の考えを、友だちの考えと比べながら見直し、よりよい考えに修正しながら、理由や根拠がわかるように表現している。</p>	<p>情報の収集</p> <p>思考を働かせ、自分たちの考えをつくりあげる</p>	<p>⑭手段を選択する</p> <p>⑮分析方法の検討</p> <p>⑯表現方法の検討</p> <p>⑰表現・発信の型や制約条件の確認</p> <p>⑱集めた情報の共有と取捨選択</p> <p>⑲対話による意見の相違や評価</p> <p>⑳解決策・改善点の見直しや修正</p> <p>㉑発信内容の点検</p> <p>㉒教科の見方・考え方で整理・分析</p> <p>㉓情報の構造化・傾向の発見</p> <p>㉔思考・表現を支える技能の習得</p> <p>㉕振り返りの機会</p>	<p>⑭分析・表現方法の選択</p> <p>⑮情報の質や課題解決の方向性から判断</p> <p>⑯分かったことや発信場面・手段から判断</p> <p>⑰スライド構成、発表時間、根拠資料</p> <p>⑱共通点・相違点や関連性、取捨選択</p> <p>⑲提案と根拠、対立点の視覚化</p> <p>⑳妥協点の模索、情報の再収集</p> <p>㉑相手を意識した工夫の相互評価</p> <p>㉒視点やキーワードの設定</p> <p>㉓思考ツール、表やワークシート、構造的な板書の工夫</p> <p>㉔似た問題の例示、失敗例から改善策</p> <p>㉕計画の評価・調整をする機会</p>	<p>充電、ペン入力、写真、動画の撮影、モページのタブ操作、アプリの利用等</p>	<p>知的財産権（著作権等）、肖像権、情報セキュリティ、ネットの特性等</p>
	<p>【授業づくりのポイント】</p> <p>エ 児童生徒が各教科等における「見方・考え方」を働かせながら、主体的に課題解決に取り組めるような学習活動を充実させる。</p> <p>オ つまづきを想定して学習活動、支援方法を計画し、児童生徒が粘り強く取り組めるようにする。</p> <p>カ 目的に応じて、ペア等のグループ活動を位置付け、児童生徒が対話的な学びを通して、自分の考え等を評価したり・改善（自己調整）したりすることができるようにする。</p>					
視点3 「学習の振り返り」	<p>■児童生徒の姿■</p> <p>5 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、できるようになったことやできなかったことなど、課題解決の過程や成果を自分の言葉で表現している。</p> <p>6 評価問題等を通じて身に付けたことを振り返り、課題解決の達成感や学習内容の有用感を感じながら、次時の学習や今後の生活に結びつけている。</p> <p>7 自身の学ぶ態度（粘り強さ、自己調整力等）に変容を自覚している。</p>	<p>情報の編集（整理・分析）</p> <p>表現・発信</p> <p>相手意識をもって伝え、自分たちの学びをふりかえる</p>	<p>⑳発表前の目標の設定</p> <p>㉑発表後の自己評価</p> <p>㉒単元・題材全体の振り返り・評価</p> <p>㉓新たな課題の発見</p> <p>㉔課題と成果物にあった振り返りの設定</p> <p>㉕実際の評価</p> <p>㉖フィードバックの確保</p> <p>㉗伝わったこと・伝わらなかったことの確認</p> <p>㉘発表に対するルーブリックの確認</p> <p>㉙質疑応答のレベル設定</p> <p>㉚他の班の成果との統合</p> <p>㉛学習成果を個別に総括</p>	<p>⑳伝え方の目標、伝える目的の確認</p> <p>㉑伝え方、質疑、準備状況の振り返り</p> <p>㉒課題解決の過程や成果を表現</p> <p>㉓さらに深める、次の機会、他の方法</p> <p>㉔発表時間、手段、空間、進行</p> <p>㉕リアルな発信相手の設定</p> <p>㉖アンケート、コメントカード、質疑、等</p> <p>㉗成果物の再点検</p> <p>㉘発表内容・発表の仕方</p> <p>㉙事実確認・意図や理由・成果の発展</p> <p>㉚多面的、複数視点で考察、関連づけ</p> <p>㉛学習課題に立ち返る、学ぶ態度の変容、達成感、有用感</p>	<p>充電、ペン入力、写真、動画の撮影、モページのタブ操作、アプリの利用等</p>	<p>知的財産権（著作権等）、肖像権、情報セキュリティ、ネットの特性等</p>
	<p>【授業づくりのポイント】</p> <p>キ 単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、学習内容や学習方法、課題解決の過程等、学んだことを自覚できるよう促す。</p> <p>ク 評価問題や、児童生徒の自己評価・相互評価等により、児童生徒が達成感や学習内容の有用感を得られるようにする。</p>					

※資質・能力を育成する効果的な指導について、1単位時間の授業展開のみならず、教科等の特質に応じて、単元や題材等のまとまりで資質・能力を身に付けさせることも重要であることから、上表の内容について、必ずしも1単位時間当たりの授業に盛り込まなければならないものではない。